

日本臨床細胞学会雑誌投稿規定

1. 投稿資格

原則として投稿者は共著者も含め日本臨床細胞学会会員に限る。

2. 掲載論文

1) 論文の種別は総説, 原著, 症例報告, 特集, 短報, 読者の声である。

2) 投稿論文は臨床細胞学の進歩に寄与しうるもので, 他誌に発表されていないものに限る。

3) 論文作成に際しては, プライバシー保護の観点も含め, ヘルシンキ宣言(ヒトにおける biomedical 研究に携わる医師のための勧告)ならびに臨床研究に関する倫理指針(厚生労働省(平成 15 年 7 月 30 日, 平成 16 年 12 月 28 日全部改正, 平成 20 年 7 月 31 日全部改正)が遵守されていること。

※これらの指針は, 学会誌 1 号に記載。

4) 論文の著作権は本学会に帰属し, 著者は当学会による電子公開を承諾するものとする(学会誌の発行の後, 電子公開される)。セルフ・アーカイブ(自身のホームページ, 所属機関のリポジトリなど)においては表題, 所属, 著者名, 内容抄録の公開は学会誌の発行の後に認められる。

5) 論文投稿に際し, 著者全員の利益相反自己申告書(様式 2)を添付すること。なお, 書式は <http://www.jscc.or.jp/member.html> からダウンロードし用いる。この様式 2 は論文末尾, 文献の直前の場所に印刷される。規定された利益相反状態がない場合は, 同部分に, 「筆者らは, 開示すべき利益相反状態はありません。」などの文言を入れる。

3. 投稿形式

1) 原則として“電子投稿”とする。

2) 電子投稿の際には, 以下のサイトからアクセスする。

<https://www.editorialmanager.com/jjscc/>

4. 執筆要項

1) 文章と文体

(1) 用語は和文または英文とする。

(2) 平仮名, 常用漢字, 現代仮名づかいを用いる。ただし, 固有名詞や一般に用いられている学術用語はその限りではない。英文での投稿原稿の場合も和文の場合に準ずる。

(3) 度量衡単位は cm, mm, μ m, cm², ml, l, g, mg など CGS 単位を用いる。

(4) 外国人名, 適当な和名のない薬品名, 器具および機械名, または疾患名, 学術的表現, 科学用語については原語を用いる。大文字は固有名詞およびドイツ語の名詞の頭文字に限る。

(5) 医学用語は日本臨床細胞学会編集の「細胞診用語解説集」に準拠すること。また, その略語を用いても良いが, はじめに完全な用語を書き, 以下に略語を用いることを明らかにする。

2) 原稿の書き方

原稿はワープロを用い, A4 判縦に横書きし, 1 行 25 字で 20 行を 1 枚におさめ

る。上下左右に 30 mm 程度の余白をとり、左揃えとする。文字は 12 ポイント相当以上を用いるのが望ましい。

3) 電子ファイル

以下の電子ファイル形式を推奨する。

Word、WordPerfect、RTF、TXT、LaTeX2e (英文のみ)、AMSTeX、TIFF、GIF、JPEG、EPS、Postscript、PICT、PDF、Excel、PowerPoint。

なお、印刷に必要な写真の解像度は、雑誌掲載サイズで 300dpi 以上が目安である。

4) 総説・原著・症例報告・短報論文の様式

(1) 構成

タイトルページ、内容抄録、索引用語(key words)、本文、利益相反状態の開示、英文抄録、文献、写真、図、表の順とする。原稿には通し頁番号をふる。タイトルページ(1 枚目)には、当該論文における修正稿回数(初回、修正 1 など)、論文の種別(原著、症例報告、短報など)、和文の表題(50 字以内)、著者名、所属のほかに論文別刷請求先、著作権の移譲と早期公開に対する同意を明記する。

2 枚目には内容抄録、索引用語を記載する。本文は内容抄録とは別に始める。

(2) 著者

著者名は直接研究に携わった者のみに限定する。著者数は以下のとおりとし、それ以外の関係者は本文末に謝辞として表記されたい。

原著:10 名以内、

症例報告:8 名以内

短報:5 名以内

総説:1 名を原則とする

(3) 内容抄録

短報を除いて 500 字以内にまとめ、以下のような小見出しをつける。

原著:目的、方法、成績、結論

症例報告:背景、症例、結論

総説と特集:論文の内容に応じて適宜設定

(4) 索引用語

論文の内容を暗示する英語の単語(Key words)を 5 語以内で表示する。原則として、第 1 語は対象、第 2 語は方法、第 3 語以下は内容を暗示する単語とする。

key words 例:

胆嚢穿刺吸引細胞診—胆嚢癌 4 例の細胞像と組織像—

Gallbladder, Aspiration, Cancer, Morphology

肝細胞癌についての 1 考察

Hepatocellular carcinoma, Morphology, Review

喀痰中に卵巣明細胞腺癌細胞が見出されたまれな 1 例

Clear cell adenocarcinoma, Cytology, Sputum, Metastasis, Case report

(5) 本文および枚数制限

a. 原著・総説

本文, 文献を含め 10,000 字以内(A4 判 20 頁)とする.

図・表(写真を含まず)は, 10 枚以内とする. 写真の枚数に制限はないが, 必要最少限の枚数とする.

b. 症例報告

本文, 文献を含め 6,000 字以内(A4 判 12 頁以内)とする.

図・表(写真を含まず)は, 5 枚以内とする. 写真の枚数に制限はないが, 必要最少限の枚数とする.

c. 短報

出来上がり 2 頁以内とする.

写真は 2 枚以内(組み合わせは各々 2 枚以内), 図表は計 1 枚までとする.

写真 2 枚と図表 1 枚が入った場合の本文(I. はじめに~)と文献は 1,500 字程度(A4 判 3 頁)を目安とする.

(6) 英文抄録

本文とは別紙に, 表題の英訳およびローマ字つづりの著者名, 所属の英文名, および抄録内容を記す. 著者名のあとに, 以下の略号を用いてそれぞれの称号あるいは資格を付記する.

医師: M. D., M. D., M. I. A. C., M. D., F. I. A. C.

歯科医師: D. D. S. とし, それ以外の称号あるいは資格は医師と同様に付記する.

臨床検査技師: M. T., C. T., J. S. C., C. T., I. A. C., C. T., C. M. I. A. C., C. T.,

C. F. I. A. C などを記載する.

抄録内容は英語で 200 語以内(ただし表題, 著者名, 所属名はのぞく)とし, 以下のような小見出しをつけてまとめる.

原著: Objective, Study Design, Results, Conclusion

症例報告: Background, Case(または Cases), Conclusion

総説: 論文の内容に応じて適宜設定

短報: 小見出しをつけずに 100 語以内にまとめる

(7) 文献

a. 主要のものに限る.

原著・特集: 30 編以内

症例報告: 15 編以内

短報: 5 編以内

総説: 特に編数の制限を定めない

b. 引用順にならべ, 本文中に肩付き番号を付す.

c. 文献表記はバンクーバー・スタイルとし, 誌名略記について和文文献は医学中央雑誌刊行会, 英文文献は Index Medicus に準ずる. 参考として以下に例を記載する.

【雑誌の場合】

著者名(和名はフルネームで, 欧文名は姓のみをフルスペル, その他はイニシャルのみで 6 名まで表記し, 6 名をこえる場合はその後を“・ほか”, “et al”と略記する).

表題(フルタイトルを記載). 雑誌名 発行年(西暦); 巻: 頁一頁.

【単行本の場合】

著者名・表題・発行地・発行所・発行年(西暦)。なお、引用が単行本の一部である場合には表題の次に編者名、単行本の表題を記し、発行年、頁一頁。

他者の著作物の図表を論文中で使用する場合は、原著者(あるいは団体)より投稿論文を電子公開することを含めた許諾が必要で、これを証明する書類を添付する。

(8) 図・表・写真

a. 図、表は英文で作成する。写真、図、表は Photo. 1, Fig. 1, Table 1 などのようにそれぞれの番号をつけ、簡単な英文のタイトルと説明を付記する。

b. 本文中には写真、図、表の挿入すべき位置を明示する。

c. 顕微鏡写真には倍率を付する。顕微鏡写真(細胞像、組織像)の倍率は撮影時の対物レンズ倍率を用いる。顕微鏡写真については撮影時の倍率を表示するか、または写真にスケールを入れる。

5) 特集論文の様式

一つのテーマのもとに数編の論文(原著ないし総説)から構成される。特集企画者は、特集全体の表題(和文および英文)および特集の趣旨(前書きに相当)を 1,200 字以内にまとめ、全論文とともに一括して投稿する。原稿の体裁は原著・総説に準じる。

6) 読者の声

以上の学術論文に該当しないもので、本誌掲載論文に関する意見、本学会の運営や活動に関する意見、臨床細胞学に関する意見を掲載する。ただし、他に発表されていないものに限る。投稿は以下の所定の書式・手順による。

(1) 表題は和文 50 字以内とする。表題に相当する英文も添える。

改行して本文を記述する。

末尾に著者名(資格も付記)、所属施設名、同住所の和文および英文を各々別行に記す。著者は 1 名を原則とする。文献は文末に含めることができるが、表・写真・図を用いることはできない。これらの全てを 1,000 字以内(A4 判 2 頁以内)にまとめる。

(2) 掲載の可否は編集委員会にて決定する。なお、投稿内容に関連して当事者ないし第三者の意見の併載が必要であると本委員会が認めた場合には、本委員会より該当者に執筆を依頼し、併列して編集することがある。

7) 英文投稿の場合

A4 縦にダブルスペースで 10 頁以内とする。

和文抄録を付し、図・表その他は和文の場合に準ずる。

5. 別刷

別刷を希望するときは、校正時に部数を明記して申し込む。

6. 論文の審査

投稿論文は編集委員会での審査により採否を決定し、その結果を筆頭著者に通知する。審査にあたっては査読制をとる。原稿の組体裁、割付は編集委員会に一任する。

7. 校正

著者校正は原則として初校において行う。出版社から送付された校正は、必ず 3 日以内に返送する。校正担当者が筆頭著者以外の時は、校正の責任者と送り先を投稿時に明記する。校正では間違いを訂正する程度とし、原稿にない加筆や訂正は行えない。

8. 掲載料

出来上がり 4 頁までを無料とし、超過頁の掲載料は著者負担とする。白黒写真製版代およびカラー写真印刷代は無料とするが、その他の図版費(図の製版代)、英文校正料、別刷代は著者負担とする。また、邦文論文の英文校正料と別刷代については半額免除とし、英文論文の場合は図版費を含めて掲載料を免除する。

9. 本規定の改定

投稿規定は改定することがある。

(平成 4 年 6 月一部改定)

(平成 6 年 6 月一部改定)

(平成 9 年 6 月一部改定)

(平成 11 年 6 月一部改定)

(平成 21 年 5 月一部改定)

(平成 21 年 6 月一部改定)

(平成 21 年 11 月一部改定)

(平成 22 年 4 月一部改定)

(平成 22 年 9 月一部改定)

(平成 23 年 2 月一部改定)

(平成 23 年 8 月一部改定)

(平成 24 年 4 月一部改定)

添付 1 Acta Cytologica への投稿について

投稿規定は www.karger.com/acy に明記されていますのでこれに従って下さい。同誌への日本からの投稿は Editorial Office の方針により National Editor を介して行うことになっております。したがって、同誌への投稿原稿は日本臨床細胞学会事務局宛に、その旨を明記してお送り下さい。なお、投稿論文は 1 編につき、2 組の原稿と同一内容を記録した電子ファイルを送付して下さい。原稿は National Editor の peer review を添付して Editorial Office にまわされます。この期間は原稿が本学会事務局に到着後 3 週間以内と定められています。Editorial Office では日本以外の 2 人の査読者の意見も参考にして採否を決めます。

送付先は下記宛で、書留郵便を用いてください。

原稿の送付先 日本臨床細胞学会編集委員会

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台 2-11-1 駿河台サンライズビル 3 階

添付 2 以下の 2 項目は毎年 1 号に掲載する。

・ヘルシンキ宣言

・臨床研究に関する倫理指針

平成 15 年 7 月 30 日

(平成 16 年 12 月 28 日全部改正)
(平成 20 年 7 月 31 日全部改正)